

第18回 中学校給食推進連絡調整会議 会議録

- 開催日時 平成28年11月7日(月) 10:00~11:05
- 場 所 高津市民館 第6会議室
- 出席者 委員：小学校校長会 山崎校長、鈴木校長
中学校校長会 堀米校長、伊藤校長
川崎市PTA連絡協議会 宮嶋事務局長
川崎市教職員組合 榎間書記次長
教育)石井中学校給食推進室長
小田桐教職員課長、澁谷教育環境整備推進室担当課長
北村健康教育課担当課長、森中学校給食推進室担当課長
田中中学校給食推進室担当課長、阿部中学校給食推進室担当課長
- ※欠席者： 川崎市PTA連絡協議会 斎藤会長、片野副会長
川崎市教職員組合 阿部書記長
教育)古内企画課長、高井指導課担当課長、古俣中学校給食推進室担当課長
事務局：教育)中学校給食推進室 二瓶担当係長、新田担当係長、大谷主任、二ノ宮職員

■内 容 (進行 中学校給食推進室)

— 資料確認 —

— 室長挨拶 —

— 資料1 川崎市学校給食センター施設概要 —

(事務局より説明)

— 資料2 中学校給食における食育及び給食運営について —

(事務局より説明)

委 員 給食費設定の考え方として、東橘中学校試行給食における1食当たり290円から320円程度と改定することについては、昨今の野菜の価格高騰等を考慮して行うものか。

事 務 局 1食当たり320円程度の価格設定の検討においては、野菜価格の高騰は想定していない。今後も価格高騰が続くのであれば、1食当たり320円程度でも厳しくなることが想定される。

— 資料3 中学校給食に関するアンケートの集計結果について —

(事務局より説明)

— 資料4 中学校給食実施に向けた説明会の開催について —

(事務局より説明)

- 委員 中学校完全給食実施に向けた保護者説明会は、どのような形で開催するのか。
- 事務局 授業参観や新入生保護者説明会等、他の学校行事と併せて開催することを計画している。本日から教職員説明会、今週末から保護者説明会の開催をそれぞれ予定している。保護者説明会を単独で実施すると参加いただけない方も多くなってしまいう可能性がある。
- 委員 配膳員の業務については、学校現場との十分な調整をお願いしたい。また、具体的業務内容が決まったら各学校に周知して欲しい。
- 事務局 配膳業務については業務委託することで検討を進めており、現在、平成 29 年度予算化に向け、調整中である。予算が決まり次第、各学校と細かい調整をしていきたい。
- 委員 資料 4「川崎市立中学校 完全給食の実施について」の中で、牛乳については、アレルギー等のやむを得ない場合を除き全員が喫食しますと記載されている。現在のミルク給食においても、牛乳を飲むか飲まないかは選択制ではなく、基本は全員飲むという指導をしており、今後の説明においても、選択制と誤解を招かないような説明をお願いしたい。
- 委員 3 年生の給食費について、9 月より給食開始となる南部学校給食センター受配校と 12 月より給食開始となる中部・北部学校給食センター受配校では、月当たりの給食実施回数が異なる。特に、3 月は入試があり実施回数が少なくなってくる。給食費を支払う保護者の立場を考慮すると不公平感が出ないような配慮が必要。
- 事務局 不公平感の解消のため、1・2 年生と 3 年生や 9 月実施と 12 月実施においては、給食費の設定に実施回数に応じた差をつけた。学校給食センターをまたいだ転校の場合には月割額が変わってしまうが。
- 委員 学校給食センターが稼働して、ようやく全校実施となるが、教職員としては、円滑に実施できるかまだ不安感があるようだ。試行実施等で先行実施している中学校における指導のポイントなどの事例は、今後実施する中学校にとっても有効な情報であろう。
- 事務局 犬蔵中学校と中野島中学校の教職員が東橋中学校を視察しており、その際の質疑応答等の情報を今後の教職員説明会等で情報提供していきたい。
- 委員 保護者説明会では様々な質問が出ると思うので、丁寧な対応をお願いしたい。
- 事務局 教職員及び保護者説明会は延べ 100 回以上の開催を計画しており、基本的には質問を紙で集約する予定であるが、答えられる質問にはその場で回答していきたい。
- 委員 保護者は、学校給食センターからの配送について心配があるかと思う。教職員としても、保護者と同様に給食実施に対する様々な不安がある。平成 29 年度には、各中学校において中学校給食実施に向けた校内組織や校務分掌を整えていく。その際に、改めて教職員への説明をお願いしたい。自助努力もするが、教育委員会事務局と連携して取り組んでいきたい。また、小学校は長年にわたり給食を実施しており、子どもたちは給食を体験している。小学校と中

学校で給食指導の内容が異ならないよう連携していくことも必要である。

- 委員 小学校では、教職員が配膳に関わることもある。1年生では、熱い食缶は教職員が対応するが、中学年になれば子どもたちは慣れてくる。高学年になれば任せられる。中学校給食における教職員に関わり方や指導方法など、各学校で決めておく必要がある。
- 事務局 様々なことを想定し、マニュアルなどを整え、学校との意識共有を図っていきたい。
- 委員 資料2「中学校給食における食育及び給食運営について」4ページでは、東橘中学校試行給食では、1食当たり125グラムの野菜摂取量の目標に届いていないようだが、目標は引き続き設定するのか。
- 事務局 東橘中学校試行給食での結果を踏まえ、新たに1食当たり125グラムを設定している。東橘中学校試行給食でも文部科学省の基準はクリアしているが、今後は東橘中学校を含めた全中学校が1食当たり125グラムの野菜摂取量の目標を目指していく。日単位で見れば目標量を下回る場合もあるが、年間を通して1食当たり125グラムの野菜摂取量を目指していく。
- 委員 中学校完全給食実施の手引きは、いつ完成するのか。また、教職員への配布はいつか。
- 事務局 本年11月の校長会で暫定版を配布する予定である。各校に1冊配布するので、教職員には必要な部分をコピーして配布するなどの対応をお願いする。
- 委員 東橘中学校試行給食において、マイ箸は忘れず持ってきているか。
- 事務局 ミルク給食においても弁当持参の際には箸を持ってきており、完全給食実施後も定着している。忘れ物も多くないようである。

— 室長挨拶 —

11時05分 閉会